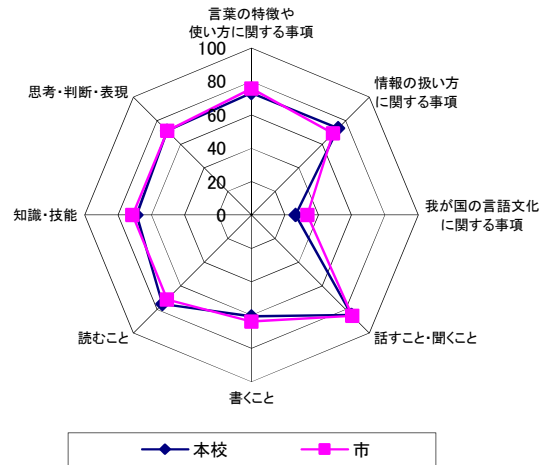


宇都宮市立雀宮中央小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	73.0	75.8	77.5
	情報の扱い方に関する事項	73.5	69.1	67.0
	我が国の言語文化に関する事項	26.5	33.5	37.2
	話すこと・聞くこと	84.8	85.5	86.5
	書くこと	60.8	63.9	65.8
	読むこと	75.5	71.6	69.5
観点別	知識・技能	68.9	71.3	72.9
	思考・判断・表現	71.5	71.3	71.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

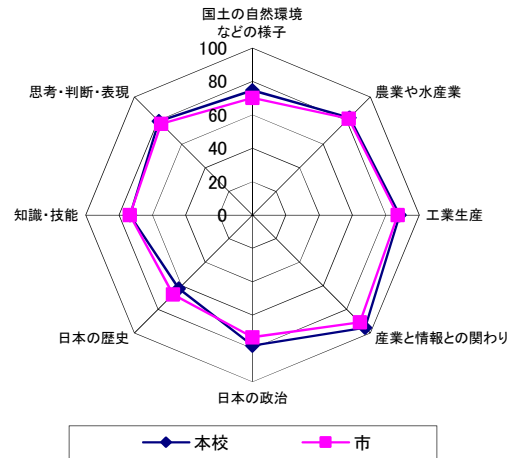
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は73.0%で、市より2.8ポイント低い。 ○漢字の読みの問題において、「うちゅう」「なら(ぶ)」の正答率は100%であった。 ●5学年で学習した漢字の書きの問題の正答率は66.2～72.1%にとどまっている。また、無解答率も7.4～14.7%であり、定着が不十分であると言える。 ●接続詞を使って1つの文を2つの文に分ける問題の正答率は47.1%で、市よりも3.9ポイント高いが、領域の中で最も低い正答率であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・授業の中だけではなく、朝の学習や宿題等でも漢字に触れる機会を多く設定し、文や文章の中で漢字を使う習慣を身に付けさせる。また、短文作りを通して、漢字のもつ意味を考えながら正しく使えるようにしていく。
情報の扱い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は73.5%で、市より4.4ポイント高い。 ○原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかを問う問題の正答率は73.5%で、市を4.4ポイント上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・原因と結果などのつながりや配列を意識して筋道の通った文章を書く活動や、事実と感想、意見などとの関係を押さえながら説明文を読んだりする活動を意図的に取り入れる。
我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は26.5%で、市より7.0ポイント低い。 ●和語、漢語、外来語について理解しているかを問う問題の正答率は26.5%で、市を7.0ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・和語、漢語、外来語の由来に関心をもてるように、語句の語源を調べる活動を行うとともに、それぞれの言葉の特徴と意味を理解させ、語彙を増やしていけるようにする。
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は84.8%で、市より0.7ポイント低い。 ○インタビューの内容を聞き取り、話の内容を捉えているかを問う問題の正答率は98.5%で、高い正答率を示した。 ●自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉え、まとめる問題の正答率は67.6%で、市を2.2ポイント下回った。また、領域の中で最も低い正答率であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語や学級活動での話し合い活動、総合的な学習の時間や委員会活動のインタビュー活動などを通して、意図に応じて質問を工夫したり、話の内容を捉えたり、聞いた内容を生かしながら自分の考えをまとめたりする力を高めていく。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は60.8%で、市より3.1ポイント低い。 ○伝えたいことを明確に書くために、目的や意図に応じてメモからどのように書くかを選ぶかを問う問題の正答率は70.6%で、市を6.5ポイント上回った。 ●条件に合わせて文章を書く問題の正答率は、4問すべてで市を下回った。指定された長さでの記述では8.0ポイント、2段落構成での記述では12.9ポイント、自分の意見とその理由を明確にした記述では3.7ポイント、予想される反論とそれに対する意見の記述では4.1ポイント下回った。また、この4問すべてで無解答率は7.4%であり、書くことを苦手とする児童が一定数おり、課題があると言える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科での学習や、総合的な学習の時間における施設紹介の学習が生かされた。 ・文章を書く際に、自分の意見と理由を明確にして書くようにさせたり、予想される反論とそれに対する意見を挙げさせるなどしていき、その際、段落や長さを指定するなどして、条件に合った文章を書く学習の機会を増やし、書く力を伸ばしていく。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は75.5%で、市より3.9ポイント高い。 ○物語の内容を読み取る問題では、すべての問題で無解答率が0.0%であった。特に、登場人物の様子について、描写を基に捉える問題の正答率は86.8%で、市を3.2ポイント上回った。 ●説明文の内容を読み取る問題では、目的に応じて文章の情報を整理し、文章中の言葉を使ってまとめる問題の正答率は60.3%で、市を1.4ポイント下回った。また、領域の中で最も低い正答率であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物語文においては、登場人物の心情や様子について描写を基に捉えさせる。 ・説明文において、文章全体の構成を捉え、序論や本論がどのように結論に関わってくるかを意識させながら読むようにさせる。これからも、筆者の伝えたいことに結びつけられるようにしながら読む力を育てる。さらに、文章を読んで自分の考えをまとめる機会を増やしていく。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	74.7	70.3	66.4
	農業や水産業	82.4	81.6	75.3
	工業生産	88.2	87.0	77.7
	産業と情報との関わり	95.6	91.0	81.3
	日本の政治	78.3	73.2	75.3
	日本の歴史	62.5	67.4	68.5
観点別	知識・技能	73.4	73.5	72.5
	思考・判断・表現	79.4	77.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

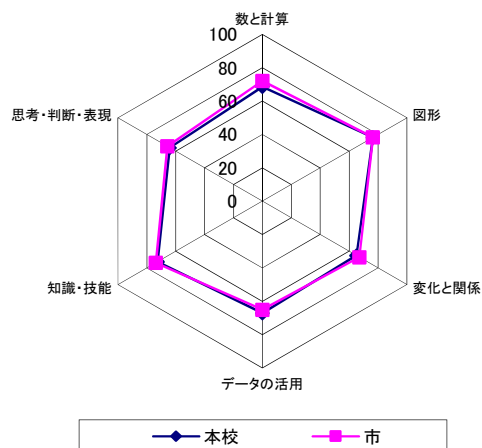
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は74.7%で、市より4.4ポイント高い。 ○日本で起きた自然災害の種類と場所を組み合わせる問題の正答率は75.0%で、市を14.7ポイント上回った。 ○人工林の役割について答える問題の正答率は82.4%で、市を2.4ポイント上回った。無回答率も0.0%であった。 ●日本の周辺の海洋名で太平洋を答える問題の正答率は75.0%で、市を9.7ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に地図帳や地球儀を活用し、赤道をはじめ国内外の海洋や山地や河川などの名称を正しく覚えられるようにする。 ・社会の授業だけではなく、外国語や総合的な学習の時間の授業においてニュースで取り上げられた外国に関わる情報や各地の自然災害や天気を話題にして、興味を高めると共に繰り返し知識が定着するような場を設定する。
農業や水産業	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は82.4%で、市より0.8ポイント高い。 ○米の収穫量が多い地方を読み取る問題の正答率は85.3%で、市を1.6ポイント上回った。 ○魚が出荷されるまでの工夫について共通点を選ぶ問題の正答率は95.6%で、市を0.7ポイント上回った。 ●米の品種改良について資料を読み取って米の特徴を答える問題の正答率は市と同程度だが、66.2%で課題が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・米の品種改良について、言葉の意味を理解してどのような工夫なのかを説明できるようにする。また、資料を読み取りながら、それぞれの品種の特徴から、掛け合わせた米の特徴を説明できるような場を設ける。 ・漁業の工夫について、水揚げから出荷までの工夫を時系列にまとめたり、写真を並び替えたりして説明できるようにする。
工業生産	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は88.2%で、市より1.2ポイント高い。 ○安全性の高い自動車づくりについて資料をもとに考える問題の正答率は97.1%で、市を2.1ポイント上回った。 ○日本の貿易の変化について資料をもとに表現する問題の正答率は79.4%で、市を2.0ポイント上回った。 ●日本の貿易の変化について資料をもとに表現する問題での正答率は79.4%と高かったものの、無回答率が2.9%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の資料を読み取る機会を設け、その特徴を自分の言葉でまとめることに慣れるようにする。 ・記述式の問題に対して苦手意識をもたないように、普段の授業で書いて説明したり、練習問題を解いたりして自信をつけるようにする。
産業と情報との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は95.6%で、市より4.6ポイント高い。 ○情報の発信と受信の注意点について考える問題の正答率は95.6%で、市を6.6ポイント上回った。 ○情報を生かした産業について考える問題の正答率は95.6%で、市を2.5ポイント上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルに関わることは、社会科だけでなく、道徳や学級活動などで折に触れて学習し、情報の発信と受信の注意点について実体験をもとに考える。 ・情報がさまざまな場面で産業に生かされていることを理解できるようにする。
日本の政治	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は78.3%で、市より5.1ポイント高い。 ○基本的人権の尊重の考えについて理解する問題の正答率は82.4%で、市を13.6ポイント上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・憲法でさまざまな権利が保障され、同時に義務として課されていることを想起させ、基本的人権はすべての人がもっている大切な権利であることを押さえる。
日本の歴史	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は62.5%で、市より4.9ポイント低い。 ○豊田秀吉の業績(刀狩り)に関する問題の正答率は82.4%で、市を1.5ポイント上回った。 ●中大兄皇子が行ったことに関する問題の正答率は67.6%で、市を13.8ポイント下回った。 ●かな文字についての理解を問う問題の正答率は63.2%で、市を9.8ポイント下回った。また、能についての理解を問う問題の正答率は50%で、市を12.1ポイント下回った。文化の特徴に関する問題に課題が見られた。 ●織田信長の業績に関する問題の正答率は61.8%で、市を6.9ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各時代の文化の特徴について習熟できるように、練習問題に取り組んだり、自主学習で復習したりする。 ・出来事の大筋を掴むために、教科書だけでなく、年表や資料集等の複数の資料を活用し、その原因と結果を考えられるようにする。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	68.6	72.1	74.6
	図形	76.5	76.5	76.1
	変化と関係	65.0	67.1	59.7
	データの活用	67.1	65.0	64.5
観点別	知識・技能	72.6	73.8	74.7
	思考・判断・表現	64.2	65.8	61.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

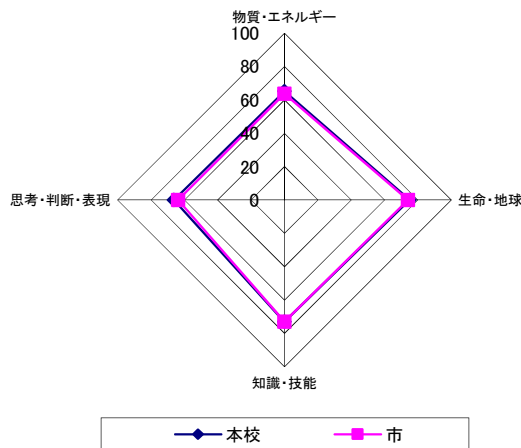
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は68.6%で、市より3.5ポイント低い。 ○真分数+真分数=真分数で、片方の分母にそろえる通分をする計算(約分あり)の問題の正答率は83.8%で、市を7.1ポイント上回った。 ●帯分数×真分数(約分2回)の問題の正答率は60.3%で、市を14.9ポイント下回った。 ●真分数÷整数(約分1回)の問題の正答率は58.8%で、市を10.2ポイント下回った。無解答率も8.8%であった。 ●比較量、基準量が分数の場合において、比較量が基準量の何倍になるかを求める式を選ぶ問題の正答率は47.1%で、市を5.1ポイント下回った。これは数と計算領域の中で最も低い正答率であり、課題が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な計算の技能の定着を図るために、計算の仕方、意味について再確認しながら、計算ドリル等で習熟を図っていく。 ・計算に関して成り立つ性質に着目し、筋道を立てて計算の仕方を考える過程を重視し、分数の乗法や除法についての理解を深める。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、市と同じく76.5%である。 ○三角形の3つの角の和を理解し、2つの角の大きさから1つの外角の大きさを求める問題の正答率は75.0%で、市を8.4ポイント上回った。 ○三角柱の展開図を組み立てたときに重なる頂点について問う問題の正答率は91.2%で、市を3.7ポイント上回った。無解答率も0.0%であった。 ●平行四辺形の面積を求める式を選ぶ問題の正答率は67.6%で、市を7.6ポイント下回った。 ●線対称な図形の対応する点を求める問題の正答率は47.1%で、市を4.0ポイント下回った。また、図形領域の中で最も低い正答率である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図形を構成する要素(底辺・高さ)を確認し、平行四辺形において、底辺と高さが常に垂直であることを押さえ、面積の立式の習熟を図る。 ・実際に紙を折ったり回したりして確かめる活動や方眼紙や白紙に作図することを通して、線対称や点対称の定義や性質について実感に伴った理解ができるようにする。
変化と関係	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は65.0%で、市より2.1ポイント低い。 ○速さと時間から道のりを求める問題の正答率は83.8%で、市を3.5ポイント下回っているものの、変化と関係領域で最も高い正答率であった。 ●基準量と割合から比較量を求める問題の正答率54.4%で、市を4.3ポイント下回った。 ●単位量あたりの大きさを求めて、その結果が何を表しどんな状態のことをしているのかを説明する問題の正答率は67.6%で、市を3.6ポイント上回ったが、無解答率が7.4%であり、課題が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「基準量を1と見たとき、比較量がどれだけにあたるかを表す数」という割合の意味に立ち返り、2本の数直線を用いて数値の対応関係をもとに式の根拠や計算の仕方を確認するようにし、比較量=基準量×割合という数量の関係をおさえる。 ・単位量あたりの大きさの考えを用いて、2つの量を1あたりの大きさで比べるよさを実感させ、日常生活に生かすことができるような場面を設定することで定着を図る。
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は67.1%で、市より2.1ポイント高い。 ○度数分布表を完成させる問題の正答率は88.2%で、市を2.5ポイント上回った。 ●調べた結果の値の中に0が含まれる場合の平均を求める問題の正答率は64.7%で、市を6.3ポイント下回った。 ●ヒストグラムの特徴と平均値を組み合わせながら、多面的な見方で考察し、説明する問題の正答率は42.6%で、市平均を7.1ポイント上回ったが、無解答率は19.1%であり、課題が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・データの中に0が含まれる場合の0を含めて平均を求める意味について「ならしたときの1つ分の大きさ」が平均であることをおさえ、正しい処理ができるようにする。 ・目的に応じてデータを分類整理し、根拠を明らかにして筋道を立てて説明する活動を取り入れ、問題の結論について判断したり、その妥当性について考察したりする力を伸ばしていく。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	65.1	63.8	61.6
	生命・地球	75.0	74.1	73.3
観点別	知識・技能	73.0	73.0	71.3
	思考・判断・表現	66.3	63.8	62.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>・領域の正答率は65.1%で、市より1.3ポイント高い。</p> <p>○物の燃え方に関する3問の問題では、いずれも正答率が高く、95.6%、92.6%、86.8%であり、無解答率も0.0%であった。また、市を5.4～12.7ポイント上回った。</p> <p>○ろ過のしかたで、正しくないところを指摘する問題の正答率は72.1%で、市を9.0ポイント上回った。</p> <p>●ごみ処理場での電磁石の利用方法から電磁石の性質を指摘する問題の正答率は55.9%で、市を9.6ポイント下回った。</p> <p>●水に食塩を溶かしても、合計の重さが変わらないことを理解しているかを問う問題の正答率は64.7%で、市を10.9ポイント下回った。</p> <p>●蒸発させたときに何も残らなかった水溶液には気体が溶けていることを理解しているかの問題の正答率は20.6%で、市を10.5ポイント下回った。</p> <p>●うすい塩酸と炭酸水を見分ける実験について構想し、説明する問題の正答率は52.9%で、市を1.6ポイント上回ったが、無解答率が10.3%であり、課題が見られた。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・実験時のグループの人数を可能な限り少なくしたり、確実に全員が実験を行えるよう配慮したりすることで、一つ一つの物質について理解できるようにする。</p> <p>・プリントやAIDリル等を使った復習の機会を引き続き取り入れ、基礎的な知識の定着を図る。</p> <p>・水溶液の性質について、観察や実験を通して調べた結果を表に整理したり、そこから考えたことを図や絵、文を用いて表現したりしながら、水溶液の性質について考えたり、説明したりする活動を行う。</p>
生命・地球	<p>・領域の正答率は75.0%で、市より0.9ポイント高い。</p> <p>○ヨウ素デンプン反応についての問題の正答率は95.6%と非常に高く、市を4.7ポイント上回った。</p> <p>○月と太陽に関する4問の問題の正答率は、すべて市を上回り、無解答率も0.0%であった。特に、ボールと電灯を用いて月の位置と見え方を調べる実験で、ボールが表すものを指摘する問題の正答率は97.1%と非常に高く、市を4.2ポイント上回った。</p> <p>○脈拍について理解しているかを問う問題の正答率は70.6%で、市を9.4ポイント上回った。</p> <p>●流れる水のはたらきについて、目的の結果を得るための実験の方法を構想し、説明する問題の正答率は54.4%で、市を5.5ポイント下回った。</p> <p>●心臓と血液のはたらきを理解しているかを問う問題の正答率は58.8%で、市を5.6ポイント下回った。</p>	<p>・全員が観察や体験を行い、日常生活と結び付けながら知識の定着を図る。</p> <p>・日常生活ではあまり用いない専門的な用語や実験に関する数値などについて、授業の導入で確認したり、プリントやAIDリル等で繰り返し復習したりして、着実な定着を図る。</p> <p>・思考力や表現力を高めるため、実験結果をもとに、話し合って考察する時間を十分に設ける。</p>

宇都宮市立雀宮中央小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
ねらいの明確化と児童自身での目標の設定による学ぶ意欲の向上	教師が授業の導入でねらいを明確に示したり、児童自身が目標を設定したりすることにより、児童が学習の見通しをもち、主体的に学習に取り組めるようにしている。	<p>・「勉強が好きである。」に肯定的に回答した児童の割合は、1～3年生と5年生で市の平均を上回るか同程度である。</p> <p>・各教科等が好きかどうかの質問に対して肯定的に回答した児童の割合は、1～3年生では全教科において市の平均を上回るか同程度であるが、4～6年生では市の平均を下回る教科がある。</p> <p>・「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。」「学習していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」に肯定的に回答した児童の割合は、1～3年生と5・6年生で市の平均を上回るか同程度である。</p> <p>・「学習して、いろいろなことが分かったり、できるようになったりすることはうれしい。」に肯定的に回答した児童の割合は、全学年において市の平均と同程度である。</p>
個別最適な学び・協働的な学びの充実を目指した授業づくり	協働学習ソフトやワークシート等、児童が学習方法や教材を選択できるようにしたり、発展的な課題に取り組めるように教材を用意したりしている。また、ペアやグループ学習を積極的に行い、児童が考えを深め合えるようにするための授業づくりに努めている。	<p>・3～6年生において、「グループなどでの話合いに自分から進んで参加している。」「ものごとをいろいろな視点や立場から考えている。」に肯定的に回答した児童の割合は、市の平均を上回るか同程度である。</p> <p>・「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる。」に肯定的に回答した児童の割合は、3・5・6年生において、市の平均を上回るか同程度である。</p>
振り返りの時間の確保	授業の終末に、児童一人一人が本時の振り返りを行い、ノートやワークシートに記述する時間を設けている。	<p>・3～6年生において、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる。」に肯定的に回答した児童の割合は、市の平均を上回るか同程度である。</p>

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・自分の考えを文章にまとめることが難しいと感じる児童が多く、「指定された条件で記述する」、「理由や自分の考えを明確にして書く」、「間違いを説明する」といった問題において、正答率が低い、または無解答率が高いという傾向が見られるため、各教科で書く活動を意図的に取り入れる。また、学び合いの場では、自分の意見を友達に分かりやすく説明することを意識させる。「パソコンを使って、相手に分かりやすく自分の考えや調べたことを伝えることができる。」に肯定的に回答した児童の割合が高いことから、1人1台端末を用いたまとめや発表、伝え合いを取り入れながら、記述を含めた表現することへの自信や意欲がもてるようにする。

・教師と児童が授業や単元のゴールを共有したり、児童が自分で目標を決めたり、自分の学びを振り返ったりすることで、児童が見通しをもって学習に取り組むことができるようにし、学習意欲を高める。

・個別最適な学び・協働的な学びの充実を目指した授業改善を継続する。また、非認知能力にも視点を向け、児童が粘り強く学習に取り組むことができるような手立てを仕組み、学習内容の定着を図る。